# 慶應義塾大学　薬学部　2023年度・アンケート

## ●6年制学科のカリキュラムの特色

本学薬学部薬学科では、モデル・コアカリキュラム改訂を受けて、2015年度入学者から学士課程のカリキュラムを見直しました。具体的には、1年次からの実験・実習の導入、従来より半年早めた4年次夏からの卒業研究講座配属などにより、基礎的な科学力や研究能力をより早期から涵養することを目指しました。

一方で、医療系教育の充実を目指して、大学における実務実習事前学習の充実と病院・薬局との連携強化等のため、学部組織を改組し、医療薬学・社会連携センターを新設しました。６年次では、高度な薬学研究を学び研究能力を高めるための科目や、薬物療法における高い実践的な臨床能力を身につけるためのアドバンスト実習科目、国際的な視野とグローバルなコミュニケーション能力を身につけるための海外アドバンスト実習科目など、学生の適性、興味、進路にそった幅広い科目選択を可能にしました。これらのカリキュラム改訂により、科学の基盤をもった、人に優しい薬剤師の育成をより一層推進していきたいと考えています。

## ●病院や薬局の実務実習 特色や取組み

病院では病棟・チーム医療に関する実習、薬局では在宅療養支援やOTC薬に関する実習など、出来るだけ患者の方々と接する機会を設定して頂くようお願いし、多くの学生が貴重な臨床体験を積んでいます。

## ●病院実習先・薬局実習先

主な病院・診療所名

慶應義塾大学病院、東京女子医科大学病院、国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院ほか　約50カ所

主な保険薬局

調整機構により実習先を確保

年度により施設数に変動がある。(約140施設～約155施設)

## ●アドバンスト（臨床）実習

希望者に対し、国内または海外 ( 米国・タイ）の教育研修病院にて、より高度で実践的な内容の体験型病院実習を行っています。

## ●多職種連携教育の具体的な内容

慶應義塾大学では2011年度より、医学部、看護医療学部、薬学部薬学科による三学部合同教育を実施しています。この合同教育は初期、中期、後期の3つのプログラムで構成され、患者に寄り添いながらグループアプローチによる医療を実践する医療人に成長することを目標に掲げています。どのプログラムも三学部の混成チームで課題に取り組み、より良いチームとは何か、質の高い医療を提供するために専門職同士がどう連携するかについて実践的に学びます。このほか、慶應義塾大学病院での合同臨床実習や、ラオス国での保健医療チーム活動に参加する学生もいます。

また、薬学部では、医療や介護福祉の現場での実習や多職種とのコミュニケーションを通して、専門職連携の在り方や多職種連携の重要性を学ぶ機会を提供しています。「多職種連携体験学習」では将来医療の担い手となる保健・医療・福祉系の学生が多職種で問題解決に向けた討論を行います。また、「リハビリ体験学習」ではリハビリテーションの専門病院での実習を通して、薬剤師の視点だけでなく、他の医療スタッフの視点・役割を理解する経験ができます。このほかにも「知的障害者との交流から学ぶ」「地域住民の健康サポート体験学習」など、将来医療の担い手となる自覚を持つための体験学習型の科目を設置しています。

## ●多職種連携教育を行う医療施設名

慶應義塾大学病院

医療法人社団健育会 ねりま健育会病院(2018年度)

医療法人銀門会 甲州リハビリテーション病院(2017年度まで)

以下は医療施設ではありませんが、多職種連携教育の一環として参加しているプログラムです。

・港区「いちょう学級」

・慶應義塾大学医療薬学・社会連携センター「健康つくり教室」

・慶應義塾大学医療系三学部「ラオス・プライマリヘルスケア保健医療チーム活動プロジェクト

## ●薬剤師国家試験への取り組み

６年間の復習や最新の知識を補う講義と模擬試験を６年次に行い国家試験に備えます。

## ●卒業研究について

6年制

卒業研究は、課題に対して科学的根拠に基づいて論理的に考え、問題を解決する能力を身に着けることを目的としています。各講座(研究室)に全学生が配属されて行います。

4年制

卒業研究は、課題に対して科学的根拠に基づいて論理的に考え、問題を解決する能力を身に着けることを目的としています。各講座(研究室)に全学生が配属されて行います。

## ●4年制の教育目標・育成する人材

日本の薬学は明治時代に始まり、創薬をはじめとする高度な生命科学への大きな貢献を続けてきました。薬科学科では、このような伝統を継承した上で、より高度な研究経験を積むことにより、創薬分野はもちろん、食品や化粧品、他にも環境や衛生といった幅広い分野での研究・教育に目献できる人材を育成しています。

## ●4 年制のカリキュラムの特色、独自の取組み

1年次からの実験・実習を行うとともに、3年次夏から卒業研究講座への配属を行うことなどを通じて、より早い時期から最先端のサイエンスを直接学ぶ機会を提供していきます。また、高年次では、創薬のための学問はもちろん、医薬統計学や医薬品情報学、バイオ産業論、薬剤疫学、老年薬学等、幅広い分野の医薬関連科目を選択科目として提供し、学生の適性、興味、進路にそった科目履修を可能にしています。これにより、創薬、臨床開発、環境・生命科学など幅広い分野における卓越した科学者の育成をより一層推進していきたいと考えています。

## ●4 年制学科から大学院に繋ぐ研究期間の確保など取り組みを教えてください。

3年次夏から卒業研究講座への配属を行うことで長期間の卒業研究期間を確保し、研究者としての基盤能力を学生のうちに構築させ、大学院での飛躍につながるカリキュラムとしています。また、薬学研究科薬科学専攻では、審査基準を満たす優れた薬科学科の学生について、最短4年間で修士(薬科学)・博士(薬科学)の2つの学位を取得可能な「修士-博士一貫コース」を設置しています。そのため、学部入学から8年間で博士学位を取得することが可能になります。本制度により、薬科学分野において創造的研究を推進し、未来を先導できる、高度人材育成のさらなる推進を目指しています。

## ●大学独自の奨学金制度

慶應義塾大学　薬学部・薬学研究科Webサイト内の「奨学金」ページ

https://www.pha.keio.ac.jp/academics/student-life/scholarship.html

## ●オープンキャンパスの日程

2020年度より実施なし